

「童謡歌おう会」

～子供たちに歌い継ぎたい童謡 35 曲～

令和7年11月18日(火) 11:30～《くーみん 2F 小ホール》



氏名 「

」

「童謡歌おう会」

～子供たちに歌い継ぎたい童謡～

《曲目》……………(ページ)

- 1, 「赤とんぼ」……………1
- 2, 「赤い靴」……………1
- 3, 「里の秋」……………1
- 4, 「月の沙漠」……………1
- 5, 「花かげ」……………2
- 6, 「リンゴの一人言」……………2
- 7, 「浜千鳥」……………2
- 8, 「雨降りお月さん」……………2
- 9, 「みかんの花咲く丘」……………2
- 10, 「仲良し小道」……………3
- 11, 「靴が鳴る」……………3
- 12, 「旅愁」……………3
- 13, 「もみじ」……………3
- 14, 「まっかな秋」……………3
- 15, 「故郷の廃家」……………3
- 16, 「ふるさと」……………4
- 17, 「婆や尋ねて」……………4

《曲目》……………(ページ)

- 18, 「優しいお母さま」……………4
- 19, 「かあさんの歌」……………4
- 20, 「ないしょ話」……………4
- 21, 「背くらべ」……………5
- 22, 「てるてる坊主」……………5
- 23, 「七つの子」……………5
- 24, 「北上夜曲」……………5
- 25, 「からすの赤ちゃん」……………5
- 26, 「森のくまさん」……………6
- 27, 「ゆりかごの歌」……………6
- 28, 「しゃぼん玉」……………6
- 29, 「こぎつね」……………6
- 30, 「カナリヤ」……………6
- 31, 「青い目の人形」……………6
- 32, 「あざみの歌」……………7
- 33, 「小さい秋見つけた」……………7
- 34, 「四季の歌」……………7
- 35, 「山のロザリア」……………7



「童謡歌おう会」

～子ども時代の懐かしさと温かさが伝わりいつまでも歌い継ぎたい童謡～

「赤とんぼ」 <T10:三木露風>

- | | |
|-----------|-------|
| 1,夕焼けこやけの | 赤とんぼ |
| おわれて見たのは | いつの日か |
| 2,山の畑の | くわの実を |
| こかごにつんだは | まぼろしか |
| 3,十五でねえやは | 嫁にゆき |
| お里のたよりも | たえはてた |
| 4,夕焼けこやけの | 赤とんぼ |
| とまっているよ | さおのさき |



「里の秋」 <S20:斎藤>

- | | |
|------------|-------|
| 1,静かな静かな | 里の秋 |
| お背戸に木の実の | 落ちる夜は |
| ああ 母さんと | ただ二人 |
| 栗の実煮てます | いろりばた |
| 2,明るい明るい | 星の空 |
| 鳴き鳴き夜がもの | 渡る夜は |
| ああ 父さんの | あの笑顔 |
| 栗の実食べては | 思い出す |
| 3,さよならさよなら | 椰子の島 |
| お舟にゆられて | 帰られる |
| ああ 父さんよ | ご無事でと |
| 今夜も母さんと | 祈ります |

「赤い靴」 <T10:野口雨情>

- | | |
|--------|-------|
| 1,赤い靴 | はいてた |
| 女の子 | |
| 異人さんに | つれられて |
| 行っちゃった | |
| 2,横浜の | 波止場から |
| 船に乗って | |
| 異人さんに | つれられて |
| 行っちゃった | |
| 3,今では | 青い目に |
| なっちゃって | |
| 異人さんの | お國に |
| いるんだろう | |
| 4,赤い靴 | 見るたび |
| 考える | |
| 異人さんに | 逢うたび |
| 考える | |



「月の沙漠」 <T12:加藤まさを>

- | | |
|---------|----------|
| 1,月の砂漠を | はるばると |
| 旅のらくだが | ゆきました |
| 金と銀との | 鞍置いて |
| 二つならんで | ゆきました |
| 2,金の鞍には | 銀のかめ |
| 銀の鞍には | 金のかめ |
| 二つのかめは | それぞれに |
| ひもで結んで | ありました |
| 3,先の鞍には | 王子さま |
| あとの鞍には | お姫さま |
| 乗った二人は | おそろいの |
| 白い上着を | きてました |
| 4,広い砂漠を | ひとすじに |
| 二人はどこへ | ゆくのでしょうか |
| おぼろにけふる | 月の夜を |
| 対のらくだは | とぼとぼと |
| ★砂丘を越えて | ゆきました |
| だまって越えて | ゆきました |

「花かげ」 <S7:大村主計>

1,十五夜お月さま ひとりぼち
さくら吹雪の 花かげに
花嫁すがたの お姉さま
車にゆられて 行きました



2,十五夜お月さま 見てたでしょう
さくら吹雪の 花かげに
花嫁すがたの 姉さまと
お別れおしんで 泣きました

3,十五夜お月さま ひとりぼち
さくら吹雪の 花かげに
遠いお里の お姉さま
私はひとりに なりました

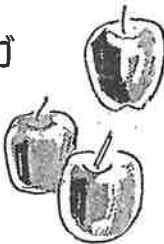


「リンゴのひとり言」 <S1:滝沢洋子>

1,私は真っ赤な リンゴです
お国は寒い 北の国
リンゴ畑の 晴れた日に
箱に詰められ 汽車ポッポ
町の市場へ 着きました
★リンゴ リンゴ リンゴ
リンゴ可愛い 一人言

2,くだもの店の 小父さんに
顔をきれいに みがかれて
みんな並んだ お店先
青いお空を 見るたびに
リンゴ畑を 思い出す
★リンゴ リンゴ リンゴ
リンゴ可愛い 一人言

3,今頃どうして いるかしら
リンゴ畑の お爺さん
箱にリンゴを つめながら
唄を歌って いるかしら
煙草をふかして いるかしら
★リンゴ リンゴ リンゴ
リンゴ可愛い 一人言



「浜千鳥」 <S8:鹿島鳴秋>

1,青い月夜の 浜辺には
親を探して 鳴く鳥が
波の國から 生まれ出る
濡れた翼の 銀の色

2,夜鳴く鳥の 悲しさは
親を尋ねて 海こえて
月夜の國へ 消えて行く
銀の翼の 浜千鳥

「雨降りお月さん」 <T14:野口雨情>

1,雨降りお月さん 雲の蔭
お嫁に行くときや 誰と行く
一人でからかさ さして行く
からかさないときや 誰と行く
シャラシャラ シャンシャン
鈴つけた
お馬に揺られて 濡れて行く

2,いそがにや お馬よ
夜が明ける
手綱の下から ちょいと見たりや
お袖でお顔を 隠してる
お袖は濡れても 干しや乾く
雨降りお月さん 雲の陰
お馬に揺られて 濡れて行く

「みかんの花咲く丘」 <S21:加藤省吾>

1,みかんの花が 咲いている
思い出の道 丘の道
はるかにみえる 青い海
お船が遠く 霞んでる

2,黒い煙を はきながら
お船はどこへ 行くのでしょうか
波に揺られて 島のかげ
汽笛はぼうと 鳴りました

3,いつか来た丘 母さんと
一緒に眺めた あの島よ
今日も一人で 見ていると
優しい母さん 思われる

「仲良し小道」 〈S14:三苦やすし〉

- 1, 仲良し小道 どの道
いつも学校へ みよちゃんと
ランドセルしょって 元気よく
お歌を歌って 通う道
- 2, 仲良し小道は 嬉しいな
いつも隣の みよちゃんが
ニコニコ遊びに かけてくる
なんなん菜の花 におう道
- 3, 仲良し小道の 小川には
とんとん板橋 かけてある
仲良く並んで 腰かけて
お話するのよ 楽しいな
- 4, 仲良し小道の 日暮れには
母様さまお家で お呼びです
さよならさよなら また明日



「靴が鳴る」 〈T8:清水かつら〉

- 1, お手々つないで 野道を行けば
みんな可愛い 小鳥になって
唄を歌えば 靴が鳴る
晴れたみ空に 靴が鳴る
- 2, 花を摘んでは おつむにさせば
みんなかわいい ウサギになって
跳ねて踊れば 靴が鳴る
晴れたみ空に 靴が鳴る



「旅愁」 〈M40:犬童球溪〉

- 1, 更け行く秋の夜 旅の空の
わびしき思いに 一人悩む
恋しやふるさと なつかし父母
夢路にたどるは さとの家路
更け行く秋の夜 旅の空の
わびしき思いに 一人悩む
- 2, 窓打つ嵐に 夢もやぶれ
はるけき彼方に ころろ迷う
恋しやふるさと なつかし父母
思いに浮かぶは もりのこずえ
窓打つ嵐に 夢もやぶれ
はるけき彼方に ころろ迷う

「もみじ」 〈M44:高野辰之〉

- 1, 秋の夕陽の 照る山紅葉(もみじ)
こいも薄いも 数ある中で
松をいろどる 楓や薦は
山のふもとの 裾もよう
- 2, 溪の流れに 散り浮くもみじ
波に揺られて はなれて寄って
赤や黄色の 色さまざまに
水の上にも 織るにしき

「まっかな秋」 〈S38:薩摩 忠〉

- 1, まっかだな 真っ赤だな
つたの葉っぱも真っ赤だな
もみじの葉っぱも 真っ赤だな
沈む夕陽に照らされて
真っ赤なほっぺたの 君と僕
真っ赤な秋に 囲まれている
- 2, まっかだな 真っ赤だな
からすうり
烏瓜って 真っ赤だな
トンボの背中も 真っ赤だな
夕焼け雲を 指さして
真っ赤なほっぺたの 君と僕
真っ赤な秋に 呼びかけている
- 3, 真っ赤だな 真っ赤だな
彼岸花って 真っ赤だな
遠くの焚火も 真っ赤だな
お宮の鳥居を くぐりぬけ
真っ赤なほっぺたの 君と僕
真っ赤な秋を 尋ねてまわる

「故郷の廃家」 〈M40:犬童球溪〉

- 1, 幾とせ故郷 来てみれば
咲く花鳴く鳥 そよぐ風
門辺の小川の ささやきも
なれにし昔に 変わらねど
荒れたる わが家よ
住む人 絶えてなく
- 2, 昔を語るか そよぐ風
昔をうつすか 澄める水
朝夕かたみに 手をとりて
遊びし友人 今いすこ
さびしき 故郷や
さびしき わが家や

「ふるさと」《T3:高野辰之》

1,うさぎ追いし かの山
こぶな釣りし かの川
ゆめは今も めぐりて
忘れ難き ふるさと



2,いかにいます 父母
つつがなしや とものがき
雨に風に つけても
思いいずる ふるさと

3,こころざしを 果たして
いつの日にか 帰らん
山は青き ふるさと
水は清き ふるさと

「ばあや尋ねて」《S16:斎藤信夫》

1,十五夜お月さん ご機嫌さん
婆やはおいとま 取りました

2,十五夜お月さん 妹は
田舎へ貰われて 行きました

3,十五夜お月さん かかさんに
も一度わたしは 逢いたいな



「やさしいお母さま」《S15:稲穂雅巳》

1,わたしがおねむに なった時
優しくねん 子守歌
歌って寝かせて くださった
ほんとに優しい お母さま

2,夏はねびえを せぬように
冬はおかぜを ひかぬよう
おふとん直して くださった
ほんとに優しい お母さま

3,わたしが大きく なったなら
ご恩をおかえし いたします
それまで達者で 待っててね
ほんとに優しい お母さま

「かあさんの歌」《S31:窪田 聡》

1,かあさんが 夜なべをして
手袋 編んでくれた
おとうは土間で わら打ち仕事
木枯らしふいちゃ 冷たかろうて
せっせと 編んだだよ
ふるさとの便りは 届く
囲炉裏の 匂いがした

2,かあさんが 麻糸つむぐ
いちにち 紡ぐ
お父は土間で 藁打ち仕事
お前も がんばれよ
ふるさとの 冬はさみしい
せめてラジオ 聞かせたい

3,かあさんの あかぎれ痛い
なまみそを すりこむ
根雪もとけりゃ もうすぐ春だ
畑が 待ってるよ
小川のせせらぎが 聞こえる
懐かしさが しみとおる



「ないしょ話」《S14:結城よしを》

1,ないしょ ないしょ
ないしょの話は あのねのね
ニコニコにっこり ね 母ちゃん
お耳へにっこり あのねのね
坊やのお願い 聞いてよね

2,ないしょ ないしょ
ないしょの お願いあのねの
ね
あしたの日曜 ね 母ちゃん
ほんとにいいでしょ あのねのね
坊やのお願い 聞いてよね

3,ないしょ ないしょ
ないしょの 話はあのねのね
お耳へにっこり ね 母ちゃん
知っているのは あのねのね
坊やと母ちゃん 二人だけ

「背くらべ」 <T12:海野 厚>

1,柱のきずは おとしの
5月5日の 背くらべ
ちまき食べ食べ 兄さんが
計ってくれた 背のだけ
昨日比べりゃ 何のこと
やっと羽織の ひものだけ

2,柱にもたれりゃ すぐ見える
遠いお山も 背くらべ
雲の上まで 顔だして
てんでに背伸び していても
雲の帽子を ぬいでさえ
一はやっぱり 富士の山



「北上夜曲」 <S:16:菊地 規>

1,匂い優しい 白百合の
濡れているような あの瞳
思い出すのは 思い出すのは
北上河原の 月の夜

2,銀河の流れ 数えつつ
星を数えた 君と僕
思い出すのは 思い出すのは
北上河原の 星の夜

3,僕は生きるぞ 生きるんだ
君の面影 胸に秘め
思い出すのは 思い出すのは
北上河原の 初恋よ

「てるてる坊主」 <T10:浅原鏡村>

1,てるてる坊主 てる坊主
あした天気は しておくれ
いつかの夢の 空のよに
晴れたら 金の鈴あげよ

2,てるてる坊主 てる坊主
あした天気は しておくれ
私の願いを 聞いたなら
甘いお酒を たんと飲ましょ

3,てるてる坊主 てる坊主
あした天気は しておくれ
それでも曇って 泣いてたら
そなたの首を チョンと切るぞ



「からすの赤ちゃん」 <T14:海沼 實>

1,からすの赤ちゃん なぜなくの
こけここの おばさんに
あかいおぼうし ほしいよ
あかいお靴も ほしいよ と
かあかあ なくのね

2,めえめえやぎさん なぜなくの
おさとの 母さんに
おねむに なったのよ
あまいおっぱい 頂戴よ と
めえめえ なくのね

3,まいごの鳩さん なぜなくの
みみずく おじさんに
夜道は こわいよ
ほおずき提灯 貸しとくれ と
ほろほろ なくのね

4,狐の赤ちゃん なぜなくの
三日月 おばさんに
木の葉でかんざし かっとくれ
小石で花ぐし かっとくれ と
こんこん なくのね



「七つの子」 <T10:野口雨情>

1,からすなぜなくの からすは山に
かわいい七つの 子があるからよ

2,可愛い可愛いと からすはなくの
可愛い可愛いと なくんだよ

3,山のふるすに いってみてごらん
まるい目をした いい子だよ

「森のくまさん」《アメリカ民謡：H3》

1,ある日森の中 熊さんに出会った
花咲く森の中 熊さんに出会った

2,熊さんの言うことにゃ
お嬢さんお逃げなさい
スタコラササッサのサ
スタコラササッサのサ



3,ところが熊さんが
あとからついてくる
トコトコ トッコトッコト
トコトコ トッコトッコト

4,お嬢さん お待ちなさい
ちょっと落とし物
白い貝殻の 小さなイヤリング

5,あら熊さん ありがとう
お礼に歌いましょう
ラララ ラララララ
ラララ ラララララ
ラララ ラララララ



「ゆりかごの歌」《T10:北原白秋》

- 1,揺り籠の歌を カナリヤが歌うよ
ねんねこねんねこ ねんねこね
- 2,揺り籠の上に びわの実が揺れるよ
ねんねこねんねこ ねんねこね
- 3,揺り籠のつなを 木ねずみがゆするよ
ねんねこねんねこ ねんねこね
- 4,揺り籠の夢を 黄色い月がかかるよ
ねんねこねんねこ ねんねこね



「しゃぼん玉」《T12:野口雨情》

- 1,しゃぼん玉とんだ 屋根までとんだ
屋根まで飛んで 壊れて消えた
- 2,しゃぼん玉消えた 生まれてすぐに
壊れて消えた
- 3,かぜ風吹くなしゃぼん玉 飛ばそう

「こぎつね」《ドイツ民謡：S22》

- 1,こぎつねコンコン 山の中山の中
草の実つぶして お化粧したり
もみじのかんざし つげのくし
- 2,こぎつねコンコン 冬の山冬の山
枯葉の着物じゃ 縫うにも縫えず
きれいな模様の 花もなし
- 3,こぎつねコンコン 穴の中穴の中
大きなしっぽは 邪魔にはなるし
小首をかしげて 考える

「カナリヤ」《T7:西城八十》

- 1,歌を忘れた カナリヤは
後ろの山に 捨てましょうか
いえいえそれは なりませぬ
- 2,歌を忘れた カナリヤは
せどのこやぶに 埋めましょうか
いえいえそれも なりませぬ
- 3, 歌を忘れた カナリヤは
柳の鞭で ぶちましょうか
いえいえそれは かわいそう
- 4,歌を忘れた カナリヤは
象牙の船に 銀のかい
月夜の海に 浮べれば
忘れた歌を 思い出す

「青い目の人形」《T10:野口雨情》

- 1,青い目をした お人形は
アメリカ生まれの セルロイド
- 2,日本の港へ 着いた時
いっぱい涙を 浮かべてた
「私は言葉が わからない
迷子になったら なんとしよう」
- 3,優しい日本の 嬢ちゃんよ
仲よく遊んで やっとくれ
仲良く遊んで やっとくれ

「あざみの歌」《H2横井 弘》

- 1, 山には山の 愁いあり
海には海の 悲しみや
まして心の 花園に
咲きしあざみの 花ならば
- 2, 高値の花の それよりも
秘めたる夢を ひとすじに
くれない燃ゆる その姿
あざみに深き わが想い
- 3, 愛しき花よ 汝があざみ
心の花よ 汝があざみ
さだめの径は はてなくも
かおれよせめて わが想い



『四季の歌』 <S46: 蘇とよひさ>

- 1, 春を愛する人は 心清き人
スミレの花のような
僕の友達
- 2, 夏を愛する人は 心強き人
岩を砕く波のような
僕の父親
- 3, 秋を愛する人は 心深き人
愛を語るハイネのような
僕の恋人
- 4, 冬を愛する人は 心広き人
雪を溶かす大地のような
僕の母親

5, ランララ・・・

「小さい秋 見つけた」 <S21: 加藤省吾>

- 1, 誰かさんが 誰かさんが
誰かさんが 見つけた
小さい秋 小さい秋
小さい秋 見つけた
目隠しおにさん 手のなる方へ
すましたお耳に かすかにしみた
呼んでる口笛 もずの声
小さい秋 小さい秋
小さい秋 見つけた
- 2, 誰かさんが 誰かさんが
誰かさんが 見つけた
小さい秋 小さい秋
小さい秋 見つけた
お部屋は北向き くもりのガラス
うつろな目の色 とかしたミルク
わずかな隙から 秋の風
小さい秋 小さい秋
小さい秋 見つけた
- 3, 誰かさんが 誰かさんが
誰かさんが 見つけた
小さい秋 小さい秋
小さい秋 見つけた
むかしのむかしの 風見の鳥の
ぼやけたとさかに はぜの葉一つ
はぜの葉あかくて いり日いろ
小さい秋 小さい秋
小さい秋 見つけた



「山のロザリア」《D7ア臨: S31→欣致》

- 1, 山の娘ロザリア いつも一人歌うよ
青い牧場日暮れて 星の出るころ
帰れ帰れも一度 忘れられぬあの日よ
涙流し別れた 君の姿よ
- 2, 黒い瞳ロザリア 今日一人歌うよ
風に揺れる花のよう 笛を鳴らして
帰れ帰れも一度 優しかったあの人
胸に抱くは形見の 銀のロケット
- 3, 一人娘ロザリア 山の歌を歌うよ
歌は甘く哀しく 星もまたたく
帰れ帰れも一度 命かけたあの夢
移り変わる世の中 花も散りゆく
- 4, 山の娘ロザリア いつも一人歌うよ
青い牧場子やぎも 夢を見るころ
帰れ帰れも一度 忘れられぬあの日よ
涙流し別れた 君の姿よ